教材名	両手取りボックス	使用学部	小学部３年
		使用授業	算数

作成した経緯、使用方法、使用した感想など

頭の中で数をイメージして一つ一つ数えなくても、ぱっと見て数を答えられることで概念化が達成されると言われています。担当している児童は数の理解を進めるうえで、具体物を数えることが優先され、いくつ？と問われて「１，２，３…」と数えてから答えていました。この課題をクリアするために、目で見ずに手の感覚だけでブロックを取り出す両手取りボックスを導入しました。

毎時間、友達と問題を出し合いながら、両手で示された数を取り出す学習をする中で、数のイメージが育ち、現在は１０以上の数も両手に分けてぱっと取り出すことができるようになりました。足し算導入の基礎ができてきたので、今後もボックスを使いながら楽しく数の学習に取り組みたいと思います。